

発見！魅力あふれる吐合・中津地区

球磨村一勝地の吐合・中津地区の魅力を地元の吐合征勝さん(78)に案内していただきました。

芋川沿いの吐合公民館側に清水の湧水場があり、吐合地区とかわせみ・せせらぎへ送水している。また吐合橋の下流中央にはおにぎり石やカバ石など他にもユ一モラスな名前が付けられた石が点在している。

吐合地区は、防災面でも先進的で意識も高く、吐合・中屋地区自主防災組織の会長でもある吐合さんは、目安としてこのおにぎり石より2メートル水位が上がった場合には自発的に避難するように決めている。

また清水の湧水場の芋川対岸の山中を20分ほど登ったところに縦80センチ、幅20センチほどの縦長に割れた岩に風穴(ふうけつ)がある。昔は水を入れた一升瓶をその風穴で冷やし農作業の合間に飲んでいた。また寒期には寒暖差でその風穴から蒸気が出ていたという。



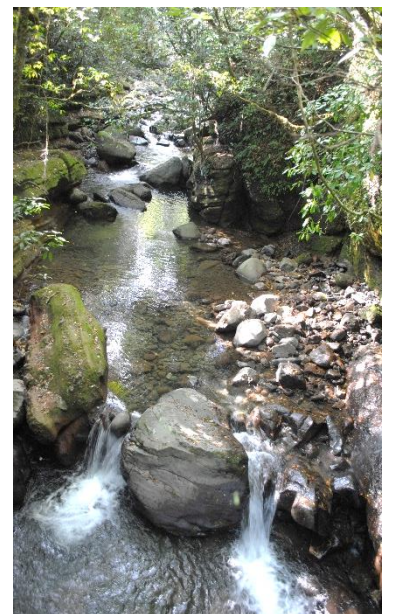
清水の湧水場



避難の目安にしているおにぎり石



風穴



中津川の清流と湧水



棚田名残の石垣



おち逢い石

芋川と分流する中津川(中津地区山柿)には、菊池水源にも劣らない清流と岸から出てくる湧水が見られる絶景がある。その右岸に棚田跡の石垣が段を成して残っている。またおち逢い石といわれる5メートル立方ほどの大きな石がある。何か文字が刻んであるが読み取れない。むかし平家の落人で茂田の太郎と柳詰の千代鶴という女性が、今でもいうデートを重ねていた場所だったといわれている。吐合さんは「特に山柿の中津川の清流と岸から出てくる湧水が見られる絶景地とおち逢い石周辺を整備してキャンプやデイトスポットにできれば、将来球磨村の観光名所のひとつになるのでは」と話している。

あー楽し！釣り談義 其の十一

前回からの続きですが、今でもあの2回のバラシは悔しくて忘れられません。あとでもう反省です…。原因は針が少し小さいかったようです。それとハリスのスレ(糸の傷)で糸とが切れてしまったことです。時々スレのチェックもしないと(師匠の教え)。夢中で忘れていました。次回は一段大きい針にして挑戦したいと思います。

後から釣りに来ていた50代の夫婦は、私が帰る頃にはチヌを5匹の釣果でした。私はハリスが切れたところで納竿。結局43センチのチヌ(自己記録二番目)を筆頭に3匹の釣果でした。

さあ、あとは帰ってから釣り道具を水洗いして魚の下処理です。たいへんですけど面白いです。家内が「三枚おろししたら？」と言うので、してみたらず上手くできなくて散々。処理した魚は、家内が煮つけや塩焼きにして美味しくいただきました。三枚おろしで少なくなった身を刺身にして食べたのですが、皮を剥ぐのを忘れてました。でも旨かったですよ！

やはり、釣れても釣れなくても釣りはいいですね。釣れば釣れたでまた行きたいし、釣れなければ「今度こそは」とリベンジに燃え行きたくなります。それに海は遠くに浮かぶ島や船を見ているだけでも、心身共にリフレッシュして最高です。皆さんもご家族やご夫婦で行ってみてはいかがでしょうか。

